高等学校の入学者選抜を軸に 日本人と英語の愛憎の歴史を探る

生命環境学部 環境科学科（総合教育センター兼務）
准教授　河村 和也（かわむら かずや）

連絡先　県立広島大学　庄原キャンパス　2403 号室
Tel: 0824-74-1000（庄原キャンパス代表電話番号）
E-mail: kawamurak@pu-hiroshima.ac.jp
＊@は半角に置き換えてください。

専門分野：　英語教育学，英語教育史

キーワード：　言語政策史，教育政策史，リーダビリティ分析，言語テスト論

● 現在の研究について

アジア・太平洋戦争終結後の大きな教育改革の中で，新制中学校・新制高等学校は生まれました。その発足期において，高等学校の入学者を選抜する際に試験を行わないことが理想とされていたことはあまり知られていないようです。

戦後10年ほどのうちに試験を実施することは当然視されるようになりましたが，選択科目であった英語が取り入れられるまでには，長い時間がかかりました。教育の中央集権化が否定されていた時代のことですから，英語が導入されるまでの道のりは自治体ごとに実にさまざまで，今日にいたるまでその全体像は見えてきていません。

私は英語教育史全般を研究テーマとしていますが，上記のことがらを踏まえ，現在は，新制高等学校発足期の入学者選抜（いわゆる「高校入試」）に英語が導入された経緯を自治体ごとに明らかにするとともに，実施された試験の問題を収集してデータベース化することを中心的な課題としています。

高校入試への英語導入の経緯を知ることにより，当時の人々が英語をどのようにとらえていたのかが見えてきます。それは，わが国の歴史の中で繰り広げられてきた日本人と英語との「愛憎劇」の一部を立体的に明らかにするものです。

また，試験問題のデータベースを活用することにより，義務教育を終了する段階で必要とされた「英語力」の実相が歴史的に解明されます。そのツールとして，コンピュータを用いたリーダビリティ（英文の難易度）の分析にも取り組んでいます。

これらのことは，わが国の現在および未来における英語教育のあり方に大きな示唆を与えるものと考えています。

● 今後進めていきたい研究について

現在進めている研究は，資料の散逸もはなはだしく，歴史の証人も少なくなりつつあることから，なかなか終着点が見えません。この完成を急ぎますが，並行して，英語教育の歴史の中に埋もれつつある人物や各種制度の再評価を試みたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

せっかくこの地に縁をいただきましたので，多くの方から英語の試験や授業に関する経験談をうかがう機会を得たいと思います。特に庄原は備北の地における「英学」の故郷とも呼べるまちですから，この地でしか得られないものを発見していきたいと考えています。

● これまでの連携実績

庄原市教育事務評価検討委員['17～]
教員免許状更新講習['17, '18]
県立広島大学言語文化生涯学習講座['17, '18]
県立広島大学・広島市立大学連携公開講座['18]
（本学への着任は 2017 年 4 月）